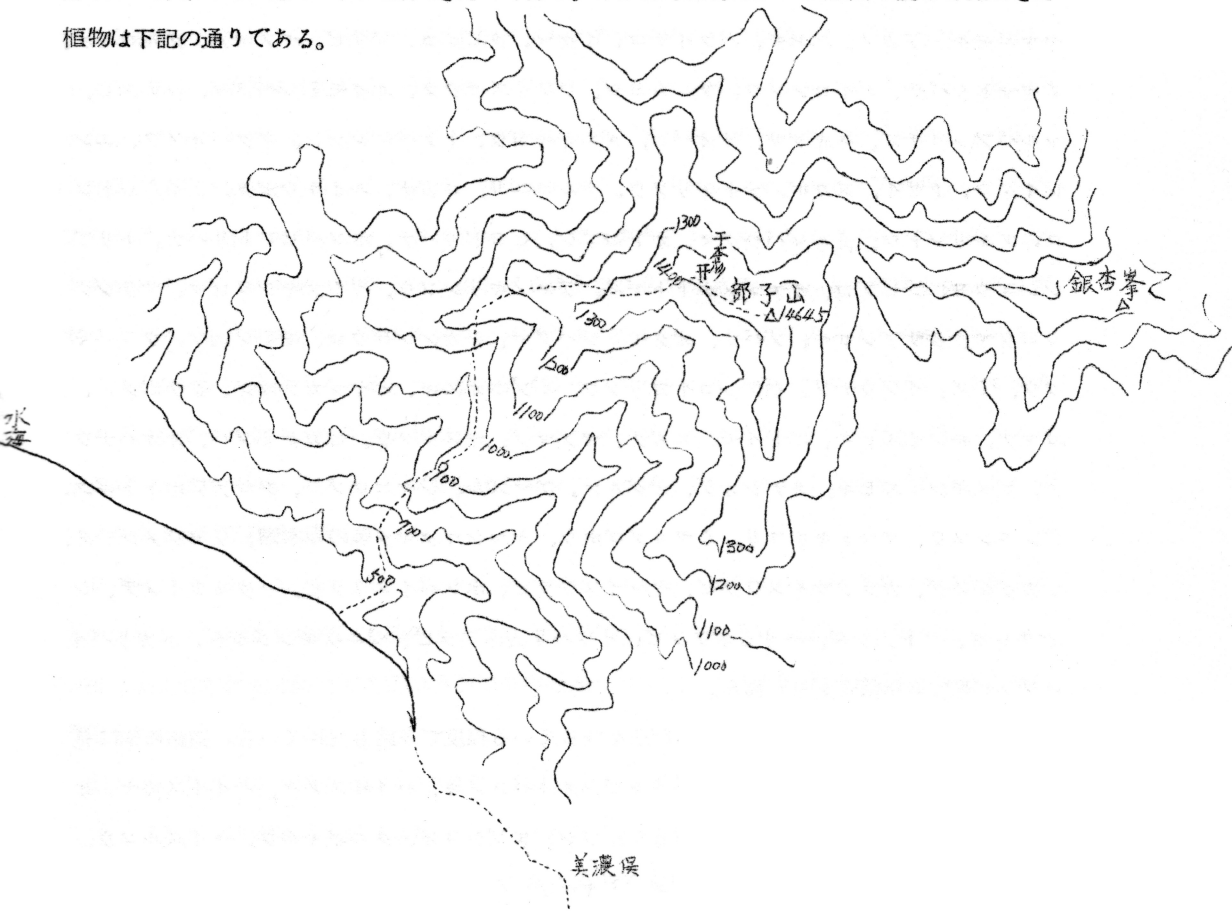


部子山採集記

渡 辺 定 路

昭和38年8月12日(羽水高校創立の年)生物クラブの男子生徒4人と共に谷口から部子山登山口には午後2時頃到着し、河原にテントを張り夕方になったらアブが一斉に出てきたのであわててテントの中にはいれば、テントの中にもはいて大騒ぎしたこと、その翌日部子山の頂上めざして行ったが千本杉の手前で雨が降ってきたので頂上まで行きたいという生徒を無理に下山させてしまった。この時の生徒はもう大学4年生になっていることを思うと感無量である。しかしながら千本杉から頂上までの間にはどんな植物があるのかと常に気掛りになっていたことが、5年後の43年7月25日に植物園担当の山下さんと植物園に植えるツルタチツボスレ等の植物を取りに行くことになり一気に解決したのである。不十分ではあるがこの2回に渡って採集した植物は下記の通りである。



登山口から尾根までには、キブシ、タニウツギ、チドリノキ、ミズキ、シナノキ、サワグルミ、ミズナラ、リョウブ、ウツギ、マタタビ、サルナシ、ツルシキミ、ハウチワカエデ、ウワミズザクラ、ホウノキ、サワフタギ、ムシカリ、ブナ、ミヤマイボタ、イワガラミ、ホツツジ、マルバマンサク、ツノハシバミ、ノリウツギ、ナナカマド、ミヤマアオダモ、コミネカエデ、タムシバ、ヤマウルシ、ムラサキマユミ、コマユミ、ヒトツバカエデ、イボタノキ、ツタウルシ、ウスゲサンカクズル、アキシバ、ゴトウズル、タラノキ、タンナサワフタギ、クマイチゴ、モミジイチゴ、ヤマボウシ、クロモジ、ヤマモミジ、ヤマアジサイ、コアジサイ、ヤマハンノキ、キンキマメザクラ、ヒメヤシヤブシ、ヒメアオキ、ナツツバキ、サイゴクミツバツツジ、アズキナシ、キツネヤナギ、ヤマツツジ、ミヤマガマズミ、ホシナシミヤマガマズミ、イタヤカエデ、ケナシヤブデマリ、ホナガクマヤナギ、フジ、クロウメモドキ、クマシデ、アサクラザンシヨウ、ウリノキ、ミヤマハハソ、クマノミズキ、エゾイボタ、キンキマメザクラ、ハクウンボク、ウスギヨウラク、ダンコウバイ等の木本類、ハクサンアザミ、ホクリクネコノメ、ウド、フキ、ノブキ、シシウド、ヤマヨモギ、アカソ、ススキ、バライチゴ、イケマ、タビラコ、ワサビ、ヤブマメ、クマバナ、ミヤマトウバナ、ダイコンソウ、サンカヨウ、ウワミズザクラ、オクモミジハグマ、コナスビ、マルバフユイチゴ、ユキザサ、オオバコ、タニギキヨウ、トチパニンジン、ツクパネソウ、エンレイソウ、クサイ、ヌカボ、オトギリソウ、ナルコユリ、ニガナ、ルイヨウボタン、モミジコロ、ツルリンドウ、クマバハグマ、オトコエシ、ヒヨドリバナ、ホソバヒヨドリバナ、トリアシシヨウマ、タビラコ、ヤマジノホトトギス、アキノキリンソウ、ヤマブキシヨウマ、サラシナシヨウマ、クサアジサイ、ソバナ、オクモミジハグマ、キケンシヨウマ、モミジガサ、ウワバミソウ、ミズ、イワウチワ、ウラジロイカリソウ、ミゾホオズキ、ミヤマカラマツ、クサボタン、ゴマナ、キンミズヒキ、ホドイモ、ニガナ、ヤブマメ、キヌタソウ、ヒカゲミツバ、オオハナウド、ヒメキンミズヒキ、タチシオデ、オグルマ、アマズル、ジヤコウソウ、タマガワホトトギス、テンニンソウ、ヤマトキホコリ、ミヤマタゴボウ、ヤマシヤクヤク等の草本類、リョウメンシダ、サカゲイノデ、カラクサイヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、ハクモウイノデ、シケチシダ、サトメシダ、ハリガネワラビ、イワハリガネワラビ、ジユウモンジンダ、トガリバイヌワラビ等の羊歯植物が見られた。

尾根に出てから千本杉の間はブナ林が所々残っている程度で道路も荒れている。道路の横に見られる植物には、クロズル、ミヤママタタビ、オオバスノキ、ハイイヌツゲ、ハイイヌガヤ、オオイタヤメイゲツ、ハクサンカメバヒキオコシ、エゾシロネ、タニギキヨウ、マイズルソウ、ムラサキヤシホツツジ、ヒトツバヨモギ、ミヤマアオダモ、ウラジロヨウラク、シノブカグマ、

シオガマギク、ヒゴオミナエシ、コミヤマカタバミ、シヨウジヨウバカマ、オオバノヨツバムグラ、イブキゼリ、イワカガミ、イヌツルウメモドキ、ミヤマカンスゲ、ナライシダ、シラネワラビ、ヒメウツギ、ヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、イワハリガネワラビ、ヒメモチ、ツクバネソウ、イチヤクソウ、ミヤマスミレ、コシノネズミガヤ、ミヤマカタバミ、オククルマムグラ、ミヤマネズミガヤ、ヒメカンアオイ、Or マルバカンアオイ、オオバユキザサ、ユキザサ等が見られた。

千本杉から頂上までの間には、ノウゴイチゴ、エチゴキジムシロ（福井県新）、タカネアオヤギソウ、ヒロハユキザサ、オオバユキザサ、ユキザサ、アカシヨウマ、ハルリンドウ、ハシナガヤマサギソウ（福井県新）クロトウヒレン、イブキトラノオ、オウバギボウシ、ウツボグサ（ミヤマウツボグサのようである、ウツボグサには走出枝があるがミヤマウツボグサにはない。標本不完全のため確認できず）、クモキリソウ、キヤラボク、ヒメカンアオイ、マルバダケブキ、ツルタチツボスミレ（1933年6月4日に部子山で採集されたものが基本標本で中井博士が新種として発表されたが、その後の研究によりテリハタチツボスミレの変種として取扱われるようになった）非常に多量に自生している。ギンリヨウソウ、ヤマズメノヒエ、エゾイボタ、ゼンテイカ、ミヤマカラマツ、ダケカンパ、ヤハズハンノキ、アカミノイヌツゲ、ツゲ（部子山の頂上にあるとは思わなかった）、ミモツケ、カラマツソウ、ハナヒリノキ、ミヤマアオダモ、ハウチワカエデ、マンネンスギ、オオバシヨリマ、コミヤマカタバミ、タテヤマウツボ、カタクリ、タカネサトメシダ、オトギリソウ（フジオトギリ型）フウリンウメモドキ、カラスシキミ、ツリガネニンジン、カラマツソウ、タムラソウ、ツリガネニンジン、ミミナグサ、ウスノキ、ホソイ、ミツバオウレン、オオバスノキ、ハクサンタイゲキ、コバイケイソウ、バイケイソウ、ミヤマタニソバ、ミヤマスミレ、オニノガリヤス、タカネマスカサ、シモツケソウ、クガイソウ、イワハリガネワラビ、アカシヨウマ、等が見られシモツケ、イブキトラノオ、オウバギボウシ、シモツケソウ等は満開で非常に美しかった。

Potentilla togassi Ohwi エチゴキジムシロ、図のようにキジムシロは小葉7枚エチゴキジムシロは5枚で、上部の3小葉は大形で同じ、下方の1対は著しく小形となる。分布、東北地方から北陸地方までの雪積地帯の特産。今後注意すれば本県に相当存在することが予想される。

Platantheva mandavinarum Reichb. fil.

var *mandarinorum* ハシナガヤマサギソウ

ヤマサギソウの距は子房と同長であるが、ハシナガヤマサギソウはそれより長い。

分布 本州、四国、九州、朝鮮、中国

本県では赤兎山、鉢伏山、取立山

Viola faurieana W. Becker

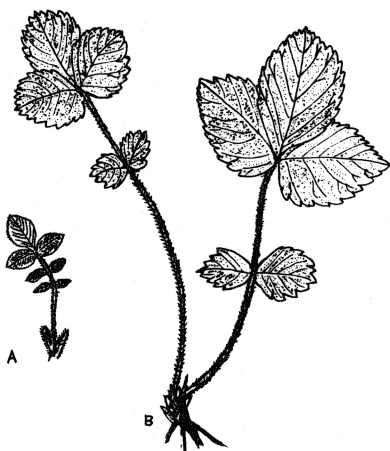
var. *rhizomata* F. Maek. et Hashimoto

ツルタツボスミレ

分布、越後、越前、但馬の山地

本県では、経ヶ岳、取立山、法恩寺、荒島岳、部子山はtype locality

だけあって千本杉から頂上にかけての道路横には非常に多く自生している。



A キジムシロ *Potentilla fragarioides*
Linn var *mojor* Maxim.

B エチゴキジムシロ
Potentilla togasii Ohwi



ツルタチツボスミレ



ハシナガヤマサギソウ